

ルカの福音書 第6章 12節

「イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。」

イエスは祈るとき、ひとり、静かなところ、山に行くなど、人目につかないどころか、弟子たちさえからも距離を置く場所を選んでいきます。好んでそのようにしたわけではなく、ただ、父なる神との集中した会話を求める結果であったと思われます。そこは山で言えば、他の一切を寄せ付けないピークです。他のすべてを見渡す頂点です。孤高の場です。

孤高の場は必ずしも物理的な位置を意味しません。都会のど真ん中、ターミナル駅での人の流れの中、繁華街の路上、バチカン広場、教会堂の中、賛美のあいだ、そして野や山や海原で孤高の場はあります。父なる神だけと対話する至福の場です。孤高の場が、天の窓が開かれる恵まれたところとなるのです。だから、対話、祈ることが起こります。祈る者一人、聞かれるお方が一人の会話が濃密に起こる場です。

山頂に立つ時、360度を一望に見渡せます。流れる雲を手でつかみ取れそうに感じます。風は透明度を増しています。光は輝きます。息をのむ自然美が大空を傘に踊り出します。これに優る、孤高の場での神との会話です。